



# 恋人のいる時間

MACHA MERIL  
DANS UN FILM DE  
JEAN - LUC GODARD

# UNE FEMME MARIÉE

AVEC PHILIPPE LEROY LE MARI  
ET BERNARD NOEL L'AMANT



AVEC PHILIPPE LEROY LE MARI  
ET BERNARD NOEL L'AMANT

# UNE FEMME MARIÉE

# 恋人のいる時間

MACHA MERIL  
DANS UN FILM DE  
JEAN-LEUC GODARD

## 37年間の沈黙を破って、今よみがえる「ゴダールによる快樂と愛の解剖学」

### 「1964年に撮影された、ある主婦の一日の断片」

要するにこの映画は、<sup>シネマ</sup>映画がそこで、自らが映画にはかならないことがうれしくて自由にはしゃぎまわっているような映画なのだ(奥村昭夫訳「ゴダール全評論・全発言」)——とゴダール自身が言うとおりの映画だ。少くともそのように単純に素直に見てみる。

私たちは、鋭くいたずらっぽいカメラの眼とともに、ある女の24時間につきあう。愛人との昼下りの情事も、夫との夜のおつとめも、まるで愛撫の体系のえぐり撮られた断片でもあるかのようだ。タクシーを乗り換え、道路をあわてて横切つて転倒する彼女は何かを追われて逃げ回っているようでもあり、何かに向かってせつかに急いでいるようでもある。

プールでたわむれるセクシーな水着の娘たちの姿をネガ出して——ネガティブに!?——うつして見せるかと思えば、シルビー・ヴァルタン(ヌーヴェル・ヴァーグのアイドルだった)の歌う「悲しきスクリーン」を聞きながら女性週刊誌「エル」の下着のスキャンダラスな広告に目を走らせる。

『恐るべき親達』のジャン・コクトーや『サイコ』のヒッチコックや『柔かい肌』のフランソワ・トリュフォーや『ローラ』のジャック・ドゥミヤ『ベレニス』のラシーヌや『なしくずしの死』のセリヌスへの目くば

せもあれば、「記憶」とか「現在」とか「知性」とか「性的快樂と愛」とかについてのTVルポルターージュ的な突撃インタビューもある。

空港のホテルでふたたび愛人とのセックスシーンに出遭うときには、夫婦生活よりも長い愛人とのなれあいに——たぶん男も女も——飽いてしまったかのような別れの儀式を見るような思いだ。

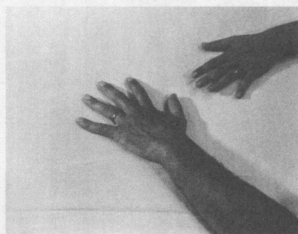
不倫の人妻(映画の原題は『ある人妻』Une Femme Mariéeである)は男たちよりも自由で自立しているかに見えるが、カメラは饒舌な冗句のように絶え間なく「現代生活」<sup>モダン・ライフ</sup>の記号や文字を読み取り、「手」mainと読めた文字がカメラのきわどいパンで「明日」demainになり、「自由」libreと読めたタクシーのメーターの文字が「空車」libreの表示にすぎず、発車とともに「自由」の文字が倒され、「危険」dangerと書かれたハイウェイの標識にカメラが寄っていくと「天使」angeになるかと思えば、「賢明ではない」「身持ちがよくない」pas sageと2文字で読めたのがじつは1文字で「通路」passageの表示にすぎなかったりする。

「白黒」で「1964年に撮られた映画の断片集」とはいえ、辛辣な言葉遊びや奔放な映像のおおぶざけにあふれかえった、いまなお斬新な映画的コラージュだ。 山田宏一(映画評論家)

ゴダールおじさんどこへ行く 夏木マリ(俳優)

ゴダールの映像はいつも私を反復させる哲学である。

そしてそのモードもいつも絶品、やられっぱなしである。この「恋人のいる時間」は、ヌーヴェル・ヴァーグという立ち位置から5年目、64年に彼がまるで映画を軽蔑しているがごとく遊び始めた頃に撮った名作だと思う。断片的なカットが、すこぶる音楽的で、絵や彫刻を観て好き嫌いがある様にとても絵画的でもあり、何かを消失した様なヒロインについて行けば、小説を読んでいる様な印象もある。あのポーヴォールが、一人の男と人生を共有するという意味で、主婦というのは完璧な主婦である、と言った言葉を、対極にいるこのゴダールを観ながら思い出した。



監督:ジャン=リュック・ゴダール  
撮影:ラウル・クタル  
出演:マーシャ・メリル(人妻)  
フィリップ・ルロワ(愛人)  
ベルナルド・ノエル(夫)

1964年/フランス映画/1時間35分  
白黒/スタンダード  
日本語字幕:寺尾次郎  
提供:日本コロムビア、ザジフィルムズ  
配給:ザジフィルムズ  
宣伝:アニメプラネット

## ゴダール5作品 連続レイトショー決定!! (日曜休映)

第1弾「恋人のいる時間」11月23日(祝)~12月13日(金)

よる9:00~1回上映(日曜休映) ※期間中追加モーニングショー実施予定。詳しくは劇場まで。

ポストカードつき(限定)特別前売鑑賞券¥1500 絶賛発売中! DVD「ゴダールのマリア」のためのささやかな覚書付鑑賞券¥2200(100枚限定)もございます

梅田ロフトB1 06(6359)1080

テアトル梅田

以後の  
スケジュール

12/14~27 「パッション」 2003. 1/4~10 「軽蔑」 1/11~24 「マリア」 1/25~31 「彼女について私が知っている二、三の事柄」